発刊の辞

発表論文集（Proceedings）『筑紫日本語研究』を，今年度より発刊いたします。

下駄履きで気軽に参加できる“談話会”として出発した「筑紫国語学談話会」も，本年 2011 年に 30 周年を迎えました。自由で楽しい雰囲気ながらも，厳しく徹底した議論が行われる場として，ここ九州の地で着実に歩みを進めてきました。25 周年の 2006 年には，『筑紫語学論叢Ⅱ』の発刊とともに，“談話会”から “研究会”へと名称をあらためました。そして，この新たな節目の年を迎えるにあたり，研究会活動の足跡を残すものとして，ここに Proceedings を編むこととなりました。

このような論文集を刊行することには，以下のようなメリットがあると考えます。

1. まとまった形で記録が残るため，参照が容易となる。
   （参考文献欄に『筑紫日本語研究 2010』のように記載することができます。）
2. 業績としての記載が行われやすくなる。
   （「談話会」から「研究会」に名称を変更したことによって，「業績」として外部に紹介しやすくなりました。中身は変わらないながらも，特に若い人にとっては，目に見える形での「業績」は重要です。また近年では，文系でも業績欄に「Journal」に加え「Proceedings」を記載することも増えてきました。）
3. プライオリティが保障される。
   （もちろん，オープンな研究会で口頭発表を行った時点でプライオリティは保障されます。ただ，発表レジュメがある場合はまだいいのですが，パワーポイントのみの発表であれば何も残りません。このような発表報告集で活字化することによって，レジュメが入手しにくい，記録が残っていない，等の問題は解決されます。）

ただし，こうした冊子体の論文集を発行し，会員の皆さまに送付することでコストが発生します。これまでは，通信費として年間 1000 円をお預かりするのみでしたが，今後は研究会の「会費」として，相当の額を徴収することとなるかもしれません。十分な議論がなされないままの見切り発車ではありますが，それでもメリットは十分にあると思います。どうかお役立ていただけたらと思います。ご意見・ご質問などございましたら，遠慮なく編集部までお寄せください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

『筑紫日本語研究』編集部
九州大学　青木博史